

# 地域の埋蔵文化財事業の課題と発展

—考古学の重要性を広めていくための効果的な方法について—

## 1. テーマ設定について

群馬県立高崎北高校 吉田敬太

### ①自分の興味・関心・原点

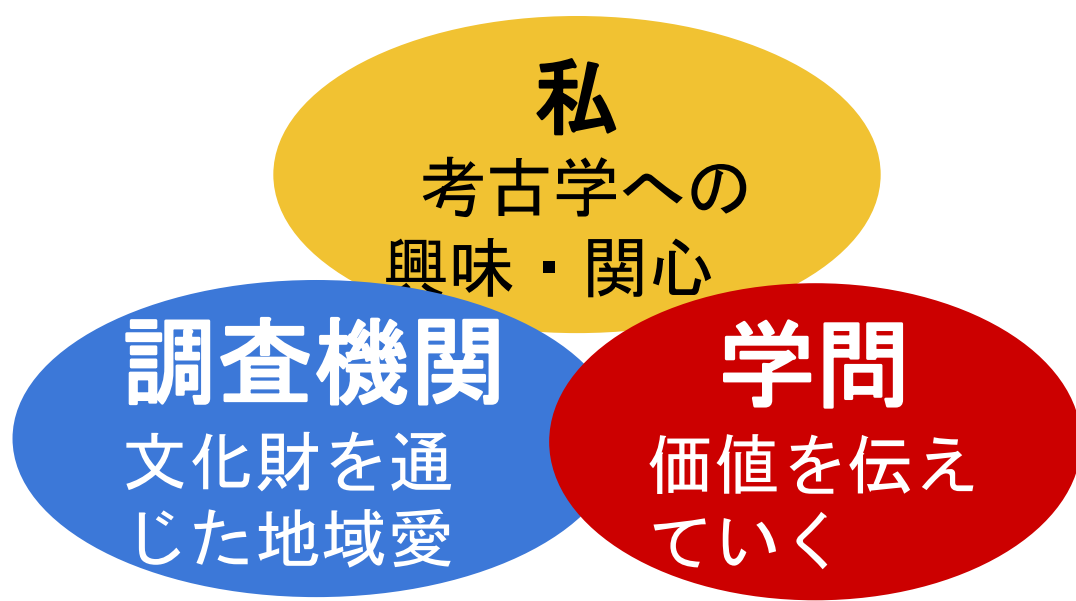
- ・歴史、発掘調査に興味がある
- ・実際に「仕事」に従事している人が、どのように考古学と向き合っているのかを感じてみたい。

### ②埋蔵文化財調査機関の課題

- ・もっと地域の文化財について知り、守っていこうという思いを持ってもらいたい。
- ・少しでも興味を持ってもらえる「きっかけ」を作りたい

### ③「学問」とのつながり

- ・どのようにして「調査」と「生活の利便性」を両立？＝調査の進め方
- ・文化財の価値を多くの人に感じてもらうには？＝伝え方



## 研究テーマ


「文化の伝承」という大きな目的をどのように継続し、どのようにして考古学の重要性を広めていくべきか。

## 課題の設定について

「考古学の重要性を広めるための効果的な方法」

- ・ ・ ・ 地域の歴史を知るとても重要な材料

「地域愛の育成」や「観光業への応用」が期待

 地域活性化に寄与できる

- ・ 「文化伝承」の大切さを社会で共有

 考古学のさらなる活性化へ

## **考察** ～興味を持ってもらうための方法～

以下の4点についての考察

- 1.発掘された遺物を時代に合わせてより効果的に公開、広めていくための方法
- 2.インターネットを活用した伝承方法
- 3.地域と相互理解を深められる成果発表
- 4.体験活動の未来について

## 2. 方法

### (1) 調査対象

#### ① 群馬県埋蔵文化財調査事業団

- ・ 所在地(本部) 渋川市北橘町下箱田784-2
- ・ 1978(昭和55)年7月に法人設立し業務を開始
- ・ 1995(平成8)年には「発掘情報館」が開館し、発掘した遺物の展示や勾玉づくりなどの体験学習を通して考古学を身近に感じる取り組みをしている。

#### ② 「保渡田押出遺跡」調査現場

- ・ 古墳時代末期～平安時代にかけての遺跡（竪穴建物60棟、道路状遺構2条、区画溝や土器の破片、かまどの跡などを発掘）
- ・ 現在の調査・・・行政発掘調査（「西毛広域幹線道路」建設に伴う調査）
- ・ 周辺に「保渡田古墳群」・「三ツ寺I遺跡」等、古墳時代～古代の遺跡が立地

## (2) 調査項目 ～インタビュー調査～

①「文化を伝承」するにあたり、どのようにして多くの人に価値を感じてもらう？

- ・発掘の成果をどのようにして公開していますか？
- ・学校教育との関わりはありますか？
- ・講演会や体験活動を通じて、どのような事を伝えていきたいですか？
- ・ICTをどのように活用していますか？

②文化財を確実に取りこぼしなく保護するため、どのような工夫をしている？

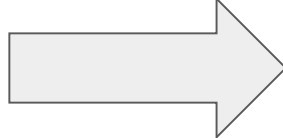
- ・文化財をできる限りそのままの状態で見守るため、どのようなことを意識していますか？

③適切な文化伝承、文化財保護に向け、学校教育とどのように連携していくべきか。

## 分析その1 【考察1・2の分析】

### 1. 遺物の公開について

- ・ 発掘された遺物を直接公開



「直接接触ることができる」機会を設ける。

### 2. インターネットを活用した伝承方法について

- ・ 出土した遺物のインターネット公開や遺跡CG作成



「離れていても」考古学に触れられる機会を

## 分析その2 【考察3・4の分析】

3.地域と相互理解を深められる成果発表について

- ・説明会の機会を設けて詳細をわかりやすく説明

 理解、並びに興味を持ってもらえるように

4.体験活動の未来について

- ・施設見学や勾玉づくり、出前授業や遺跡の貸出など

 **学校教育との連携**による

児童・生徒の考古学との接点増加へ



### (3) まとめ ～調査結果と検証～

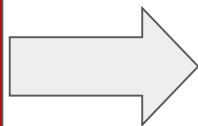
- ・考古学は現代の私達の生活を豊かにしてくれる。そのため、昔の人々の知恵を伝えていく必要がある。
- ・文化財は観光資源にも応用ができる。そのため地域活性化にも重要な役割を果たすこともできる。
- ・情報化が進んだためインターネットを活用し、発掘の成果や魅力を発信し、少しでも興味を持ってもらう必要がある。



# 私が考える「これからの埋蔵文化財のあり方」は？

## 「現在」

- ・ 手作業で慎重に作業
- ・ 調査担当者＋発掘作業員＋測量士他の業務協力体制
- ・ 現場での高齢化問題
- ・ 発掘された遺物の実物保管



## 「未来」

- ・ 発掘作業は慎重さを要するため引き続き手作業で発掘
- ・ 学問の融合が進み、地層学者等の専門家との協力体制になる？
- ・ 少子高齢化が進み、考古学を学ぶ学生が減少し、更に高齢化進展？
- ・ インターネット網の発達により、より公開史料が増えていく？

「埋蔵文化財・考古学」の仕事の未来は？（仮説）

インターネットに情報をあげて デジタル に、

体験活動の感動を通して アナログ に。